

浜の活力再生プラン
令和 6～10年度
第 3 期

1 地域水産業再生委員会

組織名	尾崎地域水産業再生委員会
代表者名	南 佳典（尾崎漁業協同組合 代表理事組合長）
再生委員会の構成員	尾崎漁業協同組合、阪南市、阪南市尾崎漁業組合地域協議会
オブザーバー	大阪府、大阪府漁業協同組合連合会
対象となる地域の範囲及び漁業の種類	阪南市尾崎町（尾崎漁協管内） 底曳網23、流し網14、刺網等10 組合員数40人（令和 6 年 4 月 1 日現在）

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

漁業者の高齢化、後継者不足と相まって漁獲高の減少や魚価低迷により、漁業経営維持が困難な状況が続いている。

また、貝毒が発生した場合には出荷自主規制を行う可能性があるほか、旬の品物を水揚げする事が出来ずタコの不漁も重なり、セリ市で取り扱う品目について代わり映えのしないマンネリ感が漂っている。

休漁日の設定などで資源管理を行い、セリ市へ参加する仲買人を新たに迎えるなど魚価向上への取組を行っている所である。

漁港全体の老朽化が進み、護岸が崩れる等危険が増加している為、修繕工事中の船舶移動や危険に対する対策費用が組合の経営を圧迫している。製氷施設を設置しているが、メーカーより使用しているガスが生産中止となる為、改修費用の捻出を迫られている。

(2) その他の関連する現状等

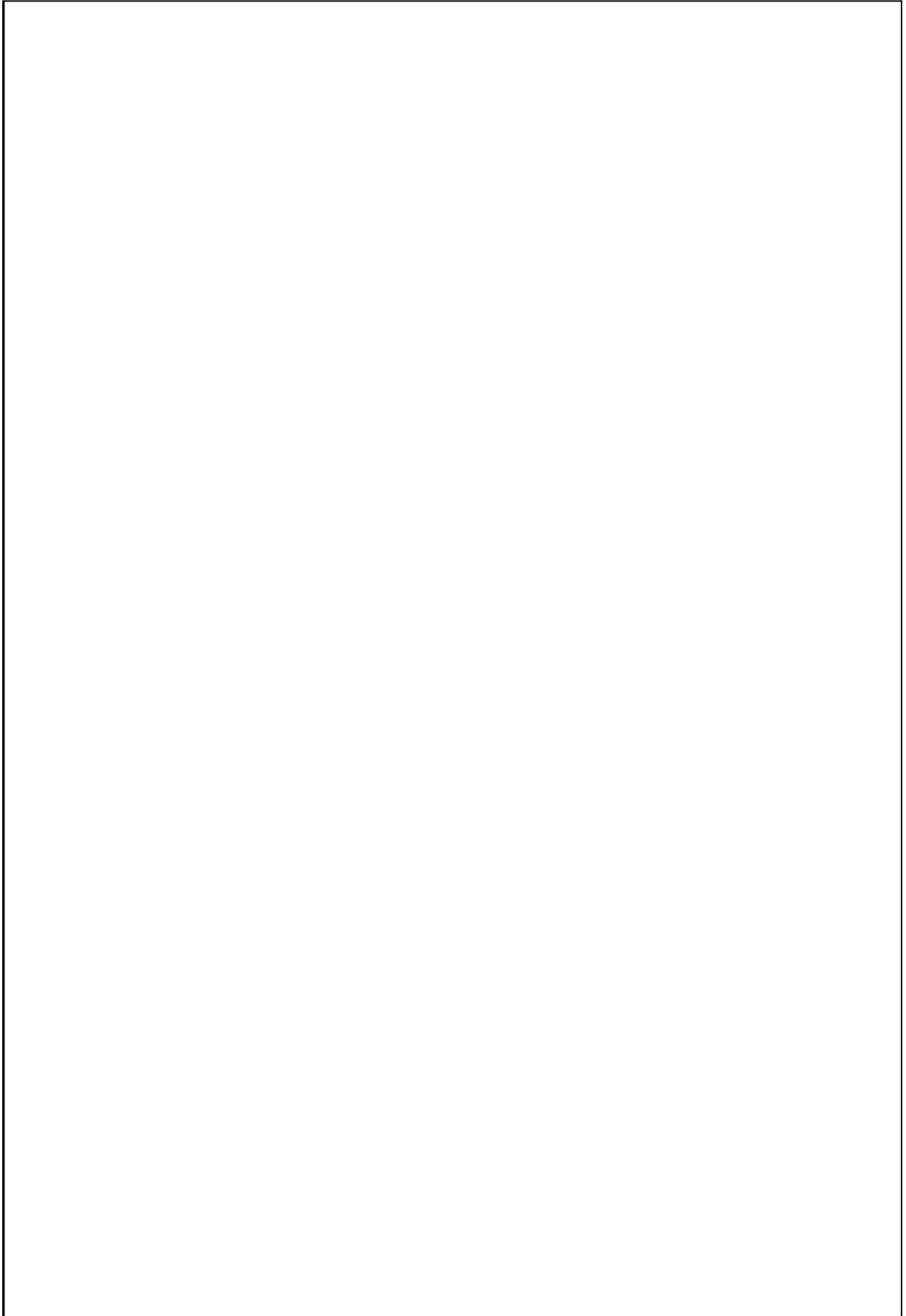
関西国際空港建造の頃から臨海側の開発から取り残された、旧来の道路により、車両の通行に支障がある。

漁協は阪南市と協力しJブルークレジットの活動を行っている。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--



(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

<p>1. 漁業収入向上の取組</p> <p>(1) ブランド化の推進</p> <p>① 阪南市全体でのカキ養殖の機運が高まっていることから、近隣での成功事例をもとにカキ養殖事業を計画し、近隣漁協と協力して推進するとともに、養殖したカキはブランド化する。</p> <p>② 漁業者による6次化商品の販売を継続する。</p> <p>(2) 品質向上による魚価向上や高付加価値化</p> <p>・ 清浄水を活用して品質向上を図るとともに、製氷施設の設置について検討を進める。</p> <p>(3) 販路拡大と認知度向上</p> <p>① 直接的な収入源を広げるため、カキ養殖の実施により取扱品目を増やし他協他港との差別化を図り販路拡大に繋げる。また、マルシェ等のイベントへ出展するなど、消費者ニーズに対応した漁業者による直接販売を継続して実施する。</p> <p>② 魚魚っ子祭りやサワラ祭り等における鮮魚販売を通じ、地域の漁獲物の認知度を向上させ、魚価向上に繋げる。</p> <p>(4) 漁場環境の保全・改良</p> <p>・ 海底耕耘を行い、貝毒の発生を抑制するとともに、漁場環境を向上させ、生産量の拡大を図る。</p> <p>2. 漁業コスト削減のための取組</p> <p>① 競争力強化型機器導入事業等を通じて、省エネ型エンジンの導入を進める。</p> <p>② 漁業者に対しセーフティネットへの加入を促し、燃油代の安定化を図る。</p> <p>3. 漁村の活性化のための取組</p> <p>・ 魚魚っ子祭りやサワラ祭り等を開催し、地域との交流を盛んに行い、地域活性化を図る。</p>

(3) 資源管理に係る取組

<p>漁業権を設定していない海産物への密漁が横行しており、権利の設定を急ぐ。 休漁日及び時間指定により資源管理を徹底する。 (漁業法、大阪府漁業調整規則、大阪府資源管理方針)</p>

(4) 具体的な取組内容

1年目（令和6年度） 所得向上率（基準年比） 15.48%

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>(1) ブランド化の推進</p> <p>① 漁協は、カキ養殖事業について、近隣での成功事例を収集する。稚貝を選定し生育状況を確認するため、まずは小規模なカキ養殖を実施し、検証データを蓄積する。</p> <p>② 漁業者は、6次化商品の販売を継続する。</p> <p>(2) 品質向上による魚価向上や高付加価値化</p> <p>・ 漁協は、清浄水を活用した品質向上を図るため、機器導入について、導入事例の収集を行う。</p> <p>(3) 販路拡大と認知度向上</p> <p>① 漁協は、マルシェ等のイベントへ出展するなど、消費者ニーズに対応した漁業者による直接販売を実施する。</p> <p>② 漁協は、魚魚っ子祭りやサワラ祭り等における鮮魚販売を通じた認知度の向上を確認するため、アンケート調査を実施する。</p>
---------------------	---

	(4) 漁場環境の保全・改良 ・漁協は、海底耕耘を行い、貝毒の発生を抑制するとともに、漁場環境を向上させる。
漁業コスト削減のための取組	①漁協は、省エネ型エンジンの導入に向け、導入希望者を把握するとともに、導入機器の調査を行う。 ②漁協は、漁業者に対しセーフティネットへの加入を促し、燃油代の安定化を図る。
漁村の活性化のための取組	漁協は、魚魚っ子祭りやサワラ祭り等を開催し、地域との交流を盛んに行う。
活用する支援措置等	競争力強化型機器導入緊急対策事業 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業

2年目（令和7年度） 所得向上率（基準年比） 16.41%

漁業収入向上のための取組	(1) ブランド化の推進 ①漁協は、1年目に引き続き、カキ養殖事業について近隣での成功事例を収集する。また、稚貝の育成状況の確認及び小規模なカキ養殖についても継続して実施するとともに、採算及び持続可能性を確認するためのデータを収集する。 ②漁業者は、6次化商品の販売を継続する。 (2) 品質向上による魚価向上や高付加価値化 ・漁協は、清浄水を活用した品質向上を図るため、機器導入について、収集した導入事例により最適な機器の導入及び活用方法を検討する。 (3) 販路拡大と認知度向上 ①漁協は、マルシェ等のイベントへ出展するなど、消費者ニーズに対応した漁業者による直接販売を実施する。 ②漁協は、魚魚っ子祭りやサワラ祭り等における鮮魚販売を通じた認知度の向上を確認するため、アンケート調査を実施する。 (4) 漁場環境の保全・改良 ・漁協は、海底耕耘を行い、貝毒の発生を抑制するとともに、漁場環境を向上させる。
漁業コスト削減のための取組	①漁協は、1年目で把握した内容をもとに、導入希望者の優先順位の決定や導入機器の選定など、導入に向けた全体スケジュールを検討する。 ②漁協は、漁業者に対しセーフティネットへの加入を促し、燃油代の安定化を図る。
漁村の活性化のための取組	漁協は、魚魚っ子祭りやサワラ祭り等を開催し、地域との交流を盛んに行う。
活用する支援措置等	競争力強化型機器導入緊急対策事業 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業

3年目（令和8年度） 所得向上率（基準年比） 17.33%

漁業収入向上のための取組	(1) ブランド化の推進 ①漁協は、カキ養殖事業について、1～2年目で収集した成功事例及び採算、持続可能性を確認するためのデータをもとに事業を計画する。稚貝の
--------------	--

	<p>育成状況の確認及び小規模なカキ養殖については継続して実施する。</p> <p>②漁業者は、6次化商品の販売を継続する。</p> <p>(2) 品質向上による魚価向上や高付加価値化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、清浄水を活用した品質向上を図るための機器導入に向け、交付金等を活用した資金計画を検討する。 <p>(3) 販路拡大と認知度向上</p> <p>①漁協は、マルシェ等のイベントへ出展するなど、消費者ニーズに対応した漁業者による直接販売を実施する。</p> <p>②漁協は、魚魚っ子祭りやサワラ祭り等における鮮魚販売を通じた認知度の向上を確認するため、アンケート調査を実施する。</p> <p>(4) 漁場環境の保全・改良</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、海底耕耘を行い、貝毒の発生を抑制するとともに、漁場環境を向上させる。
漁業コスト削減のための取組	<p>①漁協は、2年目で検討した全体スケジュールをもとに、計画書の作成など、補助制度の活用に向けた取組を行う。</p> <p>②漁協は、漁業者に対しセーフティネットへの加入を促し、燃油代の安定化を図る。</p>
漁村の活性化のための取組	<p>漁協は、魚魚っ子祭りやサワラ祭り等を開催し、地域との交流を盛んに行う。</p>
活用する支援措置等	<p>競争力強化型機器導入緊急対策事業 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業</p>

4年目（令和9年度） 所得向上率（基準年比）18.27%

漁業収入向上のための取組	<p>(1) ブランド化の推進</p> <p>①漁協は、1～3年目で実施した小規模なカキ養殖により得られたデータに基づき、本格実施に向けた事業を計画する。</p> <p>②漁業者は、6次化商品の販売を継続する。</p> <p>(2) 品質向上による魚価向上や高付加価値化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、交付金等を活用し、清浄水を活用した品質向上を図るための機器を導入し、効果を検証する。 <p>(3) 販路拡大と認知度向上</p> <p>①漁協は、マルシェ等のイベントへ出展するなど、消費者ニーズに対応した漁業者による直接販売を実施する。</p> <p>②漁協は、1～3年目で集積したアンケート結果に基づき、認知度向上及び魚価向上に向けた販売方法等を検討する。</p> <p>(4) 漁場環境の保全・改良</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、海底耕耘を行い、貝毒の発生を抑制するとともに、漁場環境を向上させる。
漁業コスト削減のための取組	<p>①漁協は、引き続き補助制度の活用に向け取り組み、燃油量のコスト削減を図る。</p> <p>②漁協は、漁業者に対しセーフティネットへの加入を促し、燃油代の安定化を図る。</p>

漁村の活性化のための取組	漁協は、魚魚っ子祭りやサワラ祭り等を開催し、地域との交流を盛んに行う。
活用する支援措置等	競争力強化型機器導入緊急対策事業 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業

5年目（令和10年度） 所得向上率（基準年比）19.21%

漁業収入向上のための取組	<p>(1) ブランド化の推進</p> <p>①漁協は、4年目で検討した事業計画をもとに、カキ養殖の本格実施に着手する。</p> <p>②漁業者は、6次化商品の販売を継続する。</p> <p>(2) 品質向上による魚価向上や高付加価値化</p> <p>・漁協は、清浄水を活用した品質向上を図るため機器導入後の検証結果に基づき、さらに効果的な利用方法について検討を進める。</p> <p>(3) 販路拡大と認知度向上</p> <p>①漁協は、マルシェ等のイベントへ出展するなど、消費者ニーズに対応した漁業者による直接販売を実施する。</p> <p>②漁協は、アンケート結果の分析に基づく効果的な販売方法等を実践する。</p> <p>(4) 漁場環境の保全・改良</p> <p>・漁協は、海底耕耘を行い、貝毒の発生を抑制するとともに、漁場環境を向上させる。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>①漁協は、引き続き補助制度の活用に向け取り組み、燃油量のコスト削減を図る。</p> <p>②漁協は、漁業者に対しセーフティネットへの加入を促し、燃油代の安定化を図る。</p>
漁村の活性化のための取組	漁協は、魚魚っ子祭りやサワラ祭り等を開催し、地域との交流を盛んに行う。
活用する支援措置等	競争力強化型機器導入緊急対策事業 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業

(5) 関係機関との連携

<p>阪南市商工会及び阪南市観光協会（魚魚っ子まつり開催） 水産技術センター、栽培事業場（稚魚放流）</p>
--

(6) 取組の評価・分析の方法・実施体制

<p>浜プランの取組の実施状況及び成果を評価、分析するため、年12回理事会による協議を実施。</p>
--

4 目標

(1) 所得目標

漁業者の所得の向上 10%以上	基準年	
	目標年	

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

(3) 所得目標以外の成果目標

カキ養殖における 生産量の増加	基準年	令和4年度： 0 (kg)
	目標年	令和10年度： 1,500 (kg)
魚魚っ子まつり参加者の増加	基準年	令和5年度： 250 (人)
	目標年	令和10年度： 300 (人)

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

<p>1. 所得向上の取組に係る成果目標 (カキ養殖における生産量の増加)</p> <p>尾崎漁協の漁業収入額(基準年)の5%を目標年のカキ養殖による目標収入額(2,300千円)とし、平均単価(1,500円/kg)で除することにより目標年の生産量を算出した。カキ養殖業を推進することにより、年間300kgずつ生産量を増加させ、令和10年度に1,500kgの生産を目指す。</p> <p>2. 漁村活性化の取組に係る成果目標 (魚魚っ子まつり参加者の増加)</p> <p>魚魚っ子まつりを継続して開催し、参加人数の増加を図る。会場の規模を考慮し、年間10名程の増加を目標とする。</p>
--

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
競争力強化型機器等導入緊急対策事業	省エネエンジンの導入により省コスト化や生産性向上に取り組む。
水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業	浜の担い手漁船リース緊急事業を活用し、中核的漁業者へリース方式による漁船の導入を支援する。